

経済学科

人材養成および教育研究上の目的

経済学科は、伝統的な経済学の知識と経済学的思考方法の教育により、経済全般に対する理解力を有するゼネラリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、今日の経済情勢と経済学の理論と応用、経済の歴史的発展に関する学習を通して、現代社会とその背後にあるメカニズムとダイナミクスに対する理解力と洞察力を養い、次世代を担う総合力ある経済人を養成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

経済学科は、社会に関する自分のアイデアを論理的に検証できる人、真理探求への欲望を持ち持続的変革に熱心な人、グローバルな市民社会に貢献できる人の育成を教育理念とします。このような理念に合わせ、日本や世界における経済・社会の諸問題の解決に真剣に取り組みたいという情熱と学習意欲を持った学生、さらに既成概念にとらわれず独自の発想が出来る個性豊かな学生を幅広く入学させます。そのため、一般入試や推薦入試など多様な入試形態を活用し、変革への情熱、経済学に対する学習意欲が旺盛な学生を選抜します。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

カリキュラムは全学的に実施する共通科目、教職科目のほかに、経済学科では基礎専門教育科目、専門科目を学生に提供します。学生は経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学が中心となる基礎専門教育科目を必修科目として履修し、自らもっとも興味を持つ研究テーマを選び、そのテーマと関連するゼミやコースを選ぶことになります。コースとは1つの関連科目群として位置付けられ、学科では実践経済分析コース、応用経済学コース、社会経済学コースの3つのコースが設定されています。実践経済分析コースは経済理論の研究、応用経済学コースは金融・財政・福祉などの政策研究、社会経済学コースは地域経済研究が中心となります。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経済学科は、総合教養科目・外国語科目・保健体育科目・単位互換科目からなる共通教育科目から32単位以上、学科の専門教育科目から76単位以上、また共通教育科目・専門教育科目・関連教育科目からなる自由履修科目から20単位以上の計128単位以上の履修を卒業要件とします。本学の他学科と比較し、自由履修単位が多いのが経済学科の



特徴ですが、これは学生のより幅広い学習を奨励するための制度です。学習の自由度を保証すると同時に、体系的な専門知識を習得させるため、コースの専門科目から計 32 単位以上の履修が卒業要件となります。卒業研究・論文は必修ではありませんが、6 単位科目となっており、学生の卒業論文作成を奨励しています。

卒業時には経済理論、経済政策、経済史、経済事情に関する専門知識と教養を身につけていることが卒業生に要求されます。

